HP『海軍砲術学校』公開史料

第三編　艦團隊水雷術關係諸法規ノ變遷

（註）本編ハ艦團隊教育訓練竝ニ裝備等ニ關シ中央當局ニテ定メタル諸令達、規則、決議等ノ變遷ヲ記述ス從ツテ前述諸官廳學校、艦隊部隊ノ組織編制竝ニ後記ス ル艦團部隊側所定ノ諸規則及其ノ運用實施等ト直接關聯ヲ有スルヲ以テ彼是參照會得スベキモノナリ

第一章　水雷術一般關係諸法規ノ變遷

第一節　明治三十七八年戰役前時代

艦團部隊ニ對スル水雷術關係諸法規々定等ハ當初殆ド見ルベキモノナク明治二十年二月艦船攻撃水雷定備例則竝ニ明細表ヲ定メタルヲ此種法規ノ嚆矢ト稱スベク概ネ艦船條例及職員勤務令ノ指示スル所ニ依リ艦隊、艦船部隊ニテ適宜内規ヲ定メ水雷術關係事項ヲ處理セルガ如シ之ヨリ先キ明治十九年將校、機技部士官及生徒教育法取調委員會ヲ設ケ關係教育方策ヲ調査審議スルトコロアリシガ直接水雷術ニ關スル事項少ナカリシモ左記ノ如キハ本委員會ノ收獲ノ一端ナリ

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

(一) 明治二十年七月ヲ以テ從來機關官養成法ヲ廢シ海軍兵學校ノ教程中ニ機關學ヲ置キ以テ將校生徒ノ一科トナシ別ニ海軍機關學校ハ之ヲ機關師トナルベキ機關手、火夫、機關工練習生等ノ教育ニ充ツル所トセリ

(二) 十九年十一月廣島縣江田島ニ海軍兵學校校舍新築工事ヲ始ム

(三) 二十一年七月海軍大學校ヲ創始ス

(四) 海軍技術士官養成ノ必要ヲ認メ帝國大學ト交渉シ其ノ同意ヲ得テ明治二十年二月海軍省ト文部省ノ協定ヲ爲シ工科大學ニ海軍技術學生ヲ置キ海軍造船科、造機科、造兵科及火藥科技術士官ヲ養成スルコトトナレリ之レ後來ノ依托學生制度ノ起源ナリ

明治二十年六月一日海軍演習概則ヲ定ム(海軍省第十四號)本概則中水雷術ニ關スル事項ヲ摘記セバ次ノ如シ

一、凡ソ演習ハ海軍軍人ヲシテ各其ノ本務ニ習熟セシメ併セテ志氣體力ヲ養成セシムルヲ主旨トス故ニ將官ヨリ卒夫ニ至ル迄勵精之ニ從事シ航海、碇泊及戰鬪ニ關スル方法動作ハ勿論衞生、給與ノ諸件其ノ他命令ノ下達報告ノ順序等悉ク實地ニ模擬シテ施行スルモノトス

二、本則ニ揭グル演習ハ分ツテ月次演習、小演習、大演習ノ三種トス故ニ日課及週課演習等別ニ課程ノ定マルモノハ各其ノ制規ニ依ルベシ

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

三、月次演習ノ科目ハ左ノ如シ

(一) 本艦戰闘準備　(二) 本艦水雷防禦部署及準備　(三) 陸戰隊上陸或ハ陸戰　(四) 水雷攻撃或ハ防禦

四、小演習ノ科目ハ凡ソ左ノ如シ

(一) 軍港要港及海岸要地ノ防禦　(二) 軍港要港及海岸要地ノ攻撃　(三) 港灣封鎖及占領　(四) 封鎖港ノ敵艦攘却　(五) 艦船對抗　(六) 陸戰

五、消耗兵器其ノ他(水雷關係ノミ摘記)

(一) 月次演習消耗員數

每艦船營演習一ケ年分消耗員數表

(イ) 發射管一門ニ付　發射　二四度

(ロ) 外裝水雷潜艇一隻每ニ　綿火藥十六听四分ノ一入　二　砲火藥一听入　八　爆發信管ノミ　二四

(ハ) 反裝水雷一艦每ニ　砲火藥一听入　二四　爆發信管ノミ　四八　砲火藥五〇听以上百听以下ヲ裝セル假製ノモノ　四

(ニ) 擲爆藥一艦每ニ　實用品　三

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

(ホ) 爆薬付探海一艦毎ニ　爆發信管ノミ　一六乃至二四
(ヘ) 爆薬付掃海一艦毎ニ　爆發信管ノミ　一六乃至二四
(ト) 障碍物除破一艦毎ニ　爆發信管ノミ　二四

(二) 小演習及大演習(大演習ハ三年ニ一回行フ見込)消耗員數

編者曰　各員數ニ於テ差違アル外品目同一ナルニ付記載ヲ略ス

(三) 防禦水雷演習一ケ年分消耗個數

編者曰　各防禦地點別ニ掲記セラレアルモ横須賀港及長浦灣ノモノヲ一例トシテ左記ス

假製海底水雷　三　假製浮標水雷　三　假製觸發水雷　三　假製機械水雷　三

(參考)

海軍演習規則上ニ現ハレタル水雷術關係法規ノ變遷

海軍演習ノ計畫指導實施等ニ關スル具體的法規ハ明治二十年六月一日海軍演習概則ヲ定メラレタルヲ以テ嚆矢トス該概則ニハ演習ノ目的演習ノ種別、各演習ニ於ケル實施項目、消耗兵器ノ制限等ヲ掲記セラレアルハ既記セルガ如シ

明治三十年二月十二日内令第一號ニ依リ海軍演習令ヲ制定セラル水雷術ニ關係アル要點ヲ示セバ左ノ如シ

一、海軍演習ニ於テ施行及攻究スベキ項目

戰闘準備法及戰闘法、艦隊及水雷艇隊運動、防禦水雷ノ敷設法、敷設水雷及其ノ附屬物ノ破壞法、水雷艇ヲ以テスル攻撃法、水雷艇ニ對スル防禦法、障害物ノ造設及破壞法、水雷艇隊ノ遠征ニ關スル要件

然ルニ明治三十四年四月十五日内令第四十一號ニ依リ呼稱ヲ海軍演習規則ト改メ研究實施項目等ノ創除ヲ見シガ次デ同四十三年

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

三月一日内令第五十號同四十五年六月十一日内令第百十四號等ニ依リ小改正ヲ經大正九年十二月一日内令第四百七十七號ニ依リ再ヒ海軍演習令ノ名目ノ下ニ大改定セラルルニ至リ大正十四年内令第百七十四號ニ依ル小改正及昭和二年九月内令第二九一號ニ依ル大改正ヲ經テ今日(昭和四年末)ニ及ベリ

左記ハ昭和二年行ハレタル演習令改正ノ要旨ナリ

演習令改正ノ要旨(摘要)

一、從來演習ニ在リテハ兵術的演練ニノミ沒頭シテ一般演習員ノ戰時必須ノ動作、諸作業ニ關シテハ動モスレバ忽諸ニ附セラレントスル風アリ之ガ矯正ヲ期シ必要ナル追補修正ヲ行フ

二、現時演習令ハ艦隊基本演習ニ對シ適當ナラザル點アリ所要ノ修正ヲ加フ

三、艦隊兵器ノ進歩ニ伴フ所要守則ノ改正ヲ行ヒ從來演習實施規程或ハ艦隊法令ニ依リ規定セラレタル演習守則中必要ナル事項ハ之ヲ演習令中ニ網羅スルコトトナシ尙閱覽記憶ニ便ナラシムル爲守則ハ適宜分類スルコトトセリ

四、演習ヲシテ尙一層實戰ニ近似セシムルニ必要ナル事項其ノ他演習實施上ヨリ得タル所要事項等必要ナル修正ヲ加フ

明治二十五年ヨリ翌二十六年ニ亘リ士官及生徒下士卒教育法取調委員會ヲ設ク而シテ其ノ取調要目ニ關シ海軍大臣ノ指示大綱左ノ如シ

(一) 海軍大學校迅鯨等ニ於テ水雷術砲術ヲ教授スルニ重複ノ慮無キ能ハズ由テ之ガ規則及程度ニ關スル區分ヲ定ムルコト

(二) 常備警備ノ艦船海兵團ニ於テ下士卒ニ適當ノ教育法ヲ設クルコト

(三) 海軍兵學校ノ教育法ハ現今ノ儘ニテ宜シキヤ

因ミニ同取調委員長ハ海軍少將福島敬典ナリキ

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

乃チ委員長海軍少將福島敬典以下審議討究ノ末二十六年三月議決ノ結果ヲ報告セリ而シテ其ノ内容浩瀚ニシテ各方ニ亘リ審議セラレシガ水雷術ニ關スル重要事項ヲ示セバ次ノ如シ

一、教育施行ノ目的ニ關シ建議ニ屬スル諸般ノ意見

(一) 水雷主機ノ職名ヲ廢シ其ノ職務ハ乘艦大機關士ノ内ニテ擔任スルヲ可トス

理由 機關官タルモノハ少機關ノ時皆悉ク水雷術練習艦ニ於テ水雷主機ニ必要ナル學科ヲ學ハシムルコトニ議決セリ故ニ機關官ハ總テ該教程ヲ履ミタルモノナルヲ以テ別ニ主機ノ職名ヲ設クル必要無シ所屬長ニ於テ艦ノ配置ニ依リ適宜乘組機關士ニ水雷掛ヲ命ズルノ制ヲ設クルヲ以テ足レリトス

(二) 掌砲兵及掌水雷兵ノ加俸ヲ增給スベシ

(三) 砲銃工練習生及水雷工練習生ハ一、二等鍛冶ヨリ採用シ各專門ノ教育ヲ與フルヲ要ス

二、水雷術練習艦ノ部

(一) 水雷術練習艦少尉學生教程(略)

此教程ハ水雷術練習ヲ命ゼラレタル少尉及少尉候補生ニシテ一ケ年以上實務ニ就キ少尉ニ進級ノ資格ヲ有スルモノニ履マシムベキモノトス

(二) 水雷術練習艦甲號學生教程(略)

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

此教程ハ海軍大學校甲號學生水雷科教程ヲ履ミタルモノニ實地練習セシムベキモノトス

(三) 水雷術練習艦少機關士學生教程

此教育ハ水雷術練習ヲ命ゼラレタル少機關士及少機關士候補生ニシテ一ケ年以上實務ニ就キ少機關士ニ進級ノ資格ヲ有スル者ニ履マシムベキモノトス

(四) 水雷長適任證書ヲ有スル大尉ニシテ三ケ年以上練習艦外ノ職務ニ服スルトキハ更ニ一ケ月間復習ノ爲練習艦ニ乘組マシムルヲ要ス

(五) 大機關士以上ニシテ水雷術卒業ノ後復習ノ志願アルトキハ年限ヲ定メズ水雷術練習艦ニ於テ之ヲ爲サシムルヲ要ス

(六) 水雷工練習生教程(略)

明治二十八年ヨリ翌二十九年ニ亘リ臨時技術及教育取調委員會ヲ設ケタリ其ノ要領等左ノ如シ

(一) 今回戰闘ノ結果ニ依リ實際ニ得ル處ノ技術教育等ニ關スル諸般ヲ講究センガ爲臨時委員會ヲ設ク

(二) 委員會ニ於テ議スベキ事ハ主ニ左ノ如クナル可シト雖モ委員長及委員ハ教育及技術上ニ關シ議案ヲ提出スルコトヲ得

戰闘ノ結果ニ依リ今後製造スベキ軍艦ノ構造等ニ關スル事

戰闘ノ結果ニ依リ得タル軍艦沈沒ノ模様等ヲ講究スル事

戰闘ノ結果ニ依リ兵裝ノ方法及其ノ利害得失ヲ講究スル事

戰闘ノ結果ニ依リ諸兵器ノ利害得失ヲ講究スル事

戰闘ノ結果ニ依リ今後教育スベキ士官下士卒ニ關スル事

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

(三) 委員會ニ於テ參考ノタメ艦隊其ノ他勤務ノ將校又ハ同相當官等ノ意見ヲ聞カントスルトキハ之ヲ指命シテ其ノ出席ヲ所管長官ニ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ所管長官ハ務メテ其ノ請求ニ應ズルモノトス

有委員長ハ海軍少將山本權兵衛ニシテ其ノ委員ハ左ノ如シ

臨時技術教育取調委員

河原大佐	伊集院大佐	出羽大佐
上村(正)大佐	吉田機關大監	原田造兵大監
佐雙造船大監	前田大佐	山口造船大監
島村少佐	加藤(友)少佐	池端少佐
岩崎少佐	松本(和)少佐	田邊機關少監
澤少佐	山木少監	成田少佐
築山大尉	江頭大尉	黒井大尉
鏑木少佐	小田(喜代藏)大尉	齊藤少佐
木村(浩吉)大尉	川島大尉	有坂造兵少技士

本委員會答申內容ノ一部ハ第七編附錄第四ニ見ルガ如シ

明治三十年九月西鄕海軍大臣ハ初メテ海軍艦團部將校教育令ヲ制定ス左ニ綱領及本令制定趣旨ヲ摘記ス(帝國海軍教育史卷七參照)

綱領

一、優等ナル軍隊ハ優等ナル下士卒ノ聚團ナリ而シテ優等ナル將校下士卒ヲ養成セント欲セバ善良ナル教育ヲ實施セザル可カラズ是レ軍隊教育ノ根底ヲ培養センガ爲メ海軍艦團部將校教育令ヲ發シ各級將校ニ軍務ノ講究ヲ課スル所以ナリ

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

二、軍務講究ノ主眼ハ人材ヲ誘掖シテ其ノ天賦ノ才能ヲ啓發シ事ニ當リ審理明斷絶テ遺算無カラシムルニ在リ古來良將ガ幾多ノ難關ヲ排除シ豫期ノ良果ヲ收メタルハ皆是レ軍務講究ノ結果ニシテ多年ノ研修ト日夕ノ工夫トニ由リ最良ノ判斷ヲ轉瞬間ニ下セルニ外ナラズ本令ハ右ノ趣旨ニ基キ各級將校ヲシテ軍務ノ講究ニ勵精ナラシメ英傑敏達ノ士ヲ誘導シテ右ノ主眼ヲ貫徹センコトヲ期ス

三、上級將校ハ下級將校ニ對シ敎導誘掖ノ責アリ是レ實ニ軍隊ニ於ケル當然ノ任務ニシテ須臾モ遺ルベカラザルモノトス、故ニ上級將校ハ率先シテ本令ノ實行ヲ力メ下級將校ヲシテ法トル所アラシメザルベカラズ

四、將校ノ講究スベキ軍務ハ其ノ範圍極メテ大ナリト雖之ヲ概言スレバ戰役ノ準備ト其ノ實施トニ過ギズ而シテ之ヲ講究センタメ諸問題ニ對スル利害得失ヲ究明シ適當ノ判斷ヲ下サント欲セバ必ズヤ高遠ニシテ該博ナル識見ヲ以テ之ニ應ゼザルベカラズ然レドモ徒ニ涉獵ヲ力メ高遠ノ理論ニ走ルトキハ漸ク實務ニ背馳スルノ傾向ヲ生ズルニ至ル是レ最モ憂フベキ弊害トス、上級將校ハ深ク此ノ點ニ留意シ下級將校ヲ戒飾シ將校ノ當サニ考究スベキ範圍ヲ逸スルコトナカラシムルヲ要ス

五、要港部、軍艦、海兵團、水雷團及軍港要港外ニ分置スル水雷艇隊、水雷敷設隊ヲ以テ將校敎育實施ノ基本トス

六、各基本長ハ第一乃至第四ノ趣旨ト實施規定トニ基キ部下將校ニ作業ヲ課スルコト概ネ左ノ如シ

一、甲種作業
二、乙種作業
三、臨時作業
四、講　話

七、各基本長ハ本件ヲ實施シ善良ノ結果ヲ生ゼシムルノ責任ヲ有スル而シテ之ヲ監督シ疎虞懈怠ナカラシムルハ所管長官ノ任トス

八、本令ハ機關官ニ適用ス

本敎育令制定ニ關シ當局ノ提案セル趣旨左ノ如シ

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

從來將校教育ノ機關ハ海軍大學校及砲術水雷術ノ兩練習所ヲ以テ構成セシモ艦團部勤務ノ將校ニ對シテハ唯單ニ責任ヲ共ノ長タル艦團其ノ他ニ負ハシメタルノミニテ未ダ一定ノ制規ニ基キ之ガ勵行ヲ計レルコトナシ、是レ海軍教育界ニ於ケル一缺點ニシテ之ガ爲軍事ノ講究ヲ輕ンズルノ趨勢ヲ作爲スルニ至ランコトヲ恐ル是本令ノ制定ヲ仰グノ必要ヲ認メタル所以ナリ

將校ハ軍ノ主腦ニシテ下士及卒ノ敎官ナルガ故ニ精神的敎育ヲ以テ第一ノ目的トスベキハ論ズルヲ俟タズ本令ニ於テ極力軍務ノ講究ヲ勸課シ一モ精神的涵養ニ論及スルナキハ精神的敎育ノ輕ンズルニ非ズ實ハ之ヲ重視スルニ因ル

言語ヲ以テ眞正ナル將校ノ模型ヲ說明スルハ至難ナリ、必ズヤ之ヲ默識ノ地ニ求メザル可カラズ而シテ將校ヲシテ眞正ノ將校タルニ近カラシメンガ爲ニハ多年ノ涵養ト自己日夕ノ工夫トニ因ラザルヲ得ズ假令ヒ敎育令ニ於テ精神敎育ノ一端ヲ說クモ看ルモノ之ヲ輕々ニ看過シ毫モ意ヲ注デ其ノ眞味ヲ咀嚼スル者ナカランニハ是レ徒ニ無用ノ辭句ヲ臚列スルニ過ギズト謂フベシ下士以下ノ精神敎育ニ至テハ名譽アル史談講話等ニ依リ之ヲ實施シ得ベキモ將校以上ニ至テハ此ノ如キ方法ヲ以テ高尙ナル精神ヲ涵養スルコト能ハザルノミナラズ根底淺キ精神談ヲ爲スハ反テ精神敎育ヲ輕弄スルノ嫌アリ之ヲ要スルニ艦團其ノ他ノ長ヲシテ將校以上ノ精神的敎育ヲ成文規則ニ照シテ行ハシメントスルハ其ノ當ヲ得ザル者タルヲ疑ハズ是レ將校敎育令ニ於テ極力軍務ノ講究ヲ勸課シ故ラニ精神敎育ニ論及スルヲ避ケタル所以ナリ

如斯將校敎育ハ精神的及技術的方面ニ海陸孰ニ勤務スルヲ問ハズ絕ヘズ一貫シテ研究シ練磨シ涵養ス可キ旨訓示セリ

下士卒ノ敎育ニ關シテハ同月艦團部下士卒敎育令ヲ發布シ其ノ要求スル目的ヲ明カニシ又敎育ノ準據スベキ細項ヲ示セリ左ニ其ノ綱領及水雷術關係事項ヲ記シ當時ニ於ケル敎育ノ着眼點及水雷長以下職員ニ期待セル責務及水雷術一般ノ狀況ヲ知ルニ便ズ

海軍艦團部下士卒敎育令

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

一、軍事教育ノ主眼ハ軍人精神ヲ養成スルニ在リ而シテ下士及卒ニ此ノ精神ヲ發揮セシムルハ將校及同相當官ノ任トス、故ニ將校及同相當官タル者深ク此ノ點ニ留意シ其ノ躬行ヲ愼ミ其ノ品位ヲ高メ誘導率先シテ部下ヲ感化スルヲ力メザルベカラズ

二、精神的教育ハ軍人教育ノ主眼ナリト雖各其ノ階級ノ高下責務ノ輕重ニ從ヒ相當ノ伎倆ヲ涵養セザルベカラズ然ラザレバ假令精神的教育十分ナル軍人ヲ得ルモ事ニ臨ミ敏活ナル手腕ヲ揮ハシムルコト能ハズ是レ精神的以外ニ於ケル軍務ノ教育ヲ輕視スベカラザル所以ナリトス故ニ本令ニ於テハ精神的教育ト共ニ伎倆ノ涵養ヲ勵行スルノ方法ヲ定メタリ

三、下士及卒ノ教育ハ該博ノ智識ヲ得セシムルヲ目的トスルモノニアラズ各其ノ業務ニ熟達シ分任ノ職務ヲ行フニ遺憾ナキヲ以テ足レリトス將校及同相當官ハ須臾モ此ノ趣旨ニ爽フコトナク下士卒ヲシテ各部署ニ於ケル各人ノ本務ニ習熟セシムルヲ以テ第一ノ目的ト爲スベシ

四、軍人ハ其ノ階級ノ高下ニ從ヒ相當ノ學識ヲ要スト雖下級軍人ヲシテ妄リニ高尚ノ學科ヲ研究セシムルハ寧ロ其ノ本務ニ熟練セシムルノ優レルニ如カズ故ニ特ニ理解力ニ富メル下士卒ニ於テハ幾分カ高等ノ學科ヲ授クルノ要アリト雖其ノ智識ヲ擴ムルハ其ノ伎倆ヲ高カラシムルニ如カザルノ理ヲ體シ務メテ高遠ニ導クノ弊ヲ避ケ之ヲ誘掖シテ諸業務ノ妙用ヲ會得セシメザルベカラズ而シテ特ニ留意スベキハ教育ノ程度各人ノ階級ニ適合スルノ一事ニ在リ

五、複雜ニシテ理解シ難キ學術ヲ教授スルハ徒ラニ頭腦ヲ紊亂シ進路ヲ迷ハシムルノ害アリ而シテ此ノ弊害ハ延テ下士及卒ヲシテ一意ニ其ノ伎倆ヲ練磨スルコト能ハザラシムルニ至ル故ニ下士及卒ノ教育ノ要領ハ簡易明白ニ在リ會得シ易キニ在リ、記臆シ易キニ在リ實地ノ應用ニ適切ナルニ在リ

六、優等ナル軍隊ハ優等ナル軍人ノ聚團ナリ、是レ基本軍隊ニ於ケル教練ノ第一目的ハ個人ノ教育ヲ完成スルニ在リト爲ス所以ナリ故ニ基本軍隊ハ此ノ目的ヲ遂行センガ爲メ教育時間ノ大部分ヲ個人教育ニ費消スベキハ論ズルヲ俟タズ、是レ本令ニ於テ基本教育ノ實施例ヲ規定シ艦團其ノ他ノ長ヲシテ切ニ之ヲ實施セシメントスル所以ナリ此點ニ留意シ一齊ニ施行セザルベカラザル操練及日課ヲ定ムル外下士卒教育實施ニ關シテハ成ルベク艦團及其ノ他ノ長ニ委任シ本令豫期ノ目的ニ協ヘシメンコトヲ

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

要ス

七、要港部、軍艦、水雷團、海兵團及軍港、要港外ニ分置スル水雷艇隊、水雷敷設隊ヲ下士卒教育施行ノ基本トス

八、各基本ノ長ハ實施例ニ基ヅキ本令ヲ實施シ善良ノ結果ヲ收ムルノ責任ヲ有ス、而シテ之ヲ監督シ疎虞懈怠ナカラシムルハ所管長官ノ任トス

水雷術關係事項

一、艦長部下ノ將校同相當官准士官及下士ヲシテ教育ノ任ニ當ラシムルニハ概ネ左ノ例ニ由ル

科目	教官	補助員
水雷術	水雷長(水雷長ナキトキハ他ノ將校) 基本長ヨリ命ゼラレタル乘組中少尉	掌水雷長、基本長ヨリ命ゼラレタル掌水雷科准士官下士

二、本條ニ基キ教授スベキ兵員ハ水雷術ニ關スル配置ニアル者及其ノ教授ヲ爲スノ必要アル者トス

水雷術ハ各基本部附屬ノ兵器ニ就キ教授スルモノニシテ主トシテ各自受持ノ兵器ヲ正當迅速ニ使用スルニ支障無カラシムルヲ目的トス而シテ其ノ教授スベキ事項概ネ左ノ如シ但シ艦團隊ニ備付ナキ兵器ニ關スルコトハ口授若クハ見學ニ依ルコトアリ

(一) 魚雷水雷及其ノ屬具　(二) 魚形水雷發射器及水雷方位盤　(三) 電燈

(四) 反裝水雷、外裝水雷、探海法、掃海法、爆藥　(五) 敷設水雷　(六) 電氣器具

(一) 魚形水雷及其ノ屬具　魚形水雷及其ノ屬具ハ分解、組立、運搬、手入等ヲ教授シ裝塡準備ニ

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

及ブ

魚形水雷ハ些少ノ過失ノ爲大目的ヲ過ルノミナラズ反テ自ラ危害ヲ被ルコトアルモノナレバ細心其ノ取扱ニ注意シ粗暴ノ擧働ヲ避クルヲ要ス而シテ其ノ作業ハ正當ニシテ迅速ナルニ至ラシムベシ

(二)

魚形水雷發射器及水雷方位盤　各基本部備付發射器ニ就キ用具、取付、操法、收納及手入法等ヲ教授スルモノニシテ萬事ノ着實ヲ旨トシ確實迅速ニ發射準備ヲ行フハ勿論周到ナル注意ヲ以テ其ノ業務ニ當ラシムルコトニ注意スベシ

水雷方位盤ハ取扱法及取付法ヲ教ヘ大體ノ理ヲ會得セシム

(三)

電燈　電燈ハ先ヅ其ノ組成ヲ知リ其ノ取扱ニ熟スルヲ要ス凡ノ電燈ノ効力ハ多ク取扱人ノ熟否ニ依ルモノナレバ良ク此點ニ注意シ燈光不完全ノトキ容易ニ之ヲ修正シ得ルノ能力ヲ備フルニ到ラシムベシ但シ發電機ハ電燈ノ根元ナルガ故ニ其ノ組成及取扱ノ概略ヲ知ラシムルノ必要アリトス

(四)

反裝水雷、外裝水雷、探海法、掃海法、擲爆藥　反裝水雷、外裝水雷以下ハ各其ノ裝備使用法ヲ教授シ適當ニ使用發火スルノ能力ヲ有スルニ至ラシメ專ラ實地ノ教練ニ自然ノ經驗ヲ積マシムルヲ要ス

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

右ノ業務ハ何レモ極メテ危險ナルモノニシテ之ガ爲不慮ノ災害ヲ受クルコト尠ナカラザルガ故ニ教官及ビ補助員ハ此點ニ留意シ徒ラニ作業ノ迅速ヲ主トスルコトナク愼重ニ愼重ヲ加ヘ最モ確實ナル方法ヲ以テ諸業務ニ從事スベキコトヲ訓示スルヲ要ス

(五) 敷設水雷　敷設水雷ハ裝備敷設ニ關スルコトヲ教授シ其ノ智識ノ發達ハ多ク實地ノ經驗ニ求ムルヲ要ス

(六) 電氣器具　電氣器具ハ其ノ組成、保存、使用法等ヲ教授シ其ノ使用ニ當リ毫モ疑心ヲ生ゼザルニ至ラシムベシ凡ソ電氣ノ事業タル毫釐ノ過誤モ其ノ及ブ處ノ害甚ダ大ニ或ハ人命ヲ殞シ或ハ貴重ノ物件ヲ破壞スルニ至ルモノナレバ若シ使用上些少ノ不明ノ點アルモ之ヲ輕視スルトキハ獨使用者ヲシテ薄氷ヲ蹈ムノ思アラシムルノミナラズ非常ノ災害ヲ生ズルコト亦尠シトセズ故ニ此項ハ十分理會スル迄綿密ニ教授シ安全且迅速ニ作業スルノ度ニ達セシムベシ

三、水雷工術ハ水雷ニ關係アル機關部員ニ魚形水雷、發電機竝ニ之ニ關聯スル兵器及其ノ屬具ノ分解組立、運搬、保存、調整ノ方法及簡易ノ修理法ヲ教授スルモノトス

水雷工、工業ノ發達ハ唯練磨ヲ重ヌルニアルガ故ニ教官及教員ハ成ルベク實地ニ就キ教育ヲ施行シ各自ニ相當ノ伎倆ヲ與ヘ各自ノ頭腦ニ水雷工業ノ最大要諦ハ綿密ト丁寧トニアルコトヲ銘刻セシムベキモノトス

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

（第二編第三章第一節艦船職員勤務中水雷長及以下關係職員ニ關スル部參照）

明治三十一年十二月山本海軍大臣ハ海軍教育部教育要旨ヲ示シ各學校及練習所等ニ教育方針ヲ示シ之ガ歸嚮スル所ヲ知ラシム、其ノ大要ヲ示セバ左ノ如シ

一、海軍教育部教育要旨

一、本要旨ハ海軍教育部ノ教育ニ關スル方針ヲ劃定ス

本要旨ニ於テ教育部ト稱スルハ諸學校、練習所及教育ノ目的ヲ以テ組織シタル諸機關ヲ謂ヒ中央教育部ト稱スルハ教育訓練ニ關スル事項ヲ擔任スル海軍省各局ヲ謂フ

二、各教育部ノ長ハ各其ノ條例規則及本要旨ニ基キ講學者ノ階級、學力及其ノ目的等ヲ察シ教育上必要ノ規定ヲ設ケ海軍大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ實施スベシ

三、教育實施ノ方法宜シキヲ得ルト否トハ教育ノ進歩ニ大關係ヲ有スルガ故ニ各教育部ノ長ハ其ノ實況ヲ監査シ講學者ヲシテ充分ニ其ノ教授事項ヲ會得セシムルニ適スルヤ否ヤニ注意シ其ノ意見ヲ中央教育部ノ長ニ通知スベシ

四、教育ハ各教育部ノ齊一ナル進歩ヲ待テ始メテ完備スベキモノナルヲ以テ相互ニ密接ナル連絡ヲ保ツコトニ注意シ個々變調ノ行動ヲ爲サザラシムルヲ要ス、故ニ教育部ノ長教育ニ關スル事項ヲ定メ若クハ之ヲ變更セントスルトキハ同種ノ學科ヲ教授スル他ノ教育部ノ長ト商議スベシ

五、各教育部ノ長ハ左ノ要項ニ從ヒ教育上必要ナル教科書ヲ編纂セシメ其ノ一部ヲ中央教育部及同種ノ學科ヲ教授スル他ノ教育部ニ送附スベシ　但シ教科書中軍事ノ機密ニ渉ルモノハ豫メ海軍大臣ノ認可ヲ受クベシ

一、當該教育ノ目的以外ニ渉ラザルコト

二、講學者ノ階級學力及其ノ目的ニ適應ナルコト

三、成ルベク實用ニ適切ナラザル理論ニ偏傾セザルコト

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

四、教育ノ實施上便利ナル順序ヲ立ツルコト

六、教育ノ方法ハ概ネ簡便ナルヲ要スト雖モ強ヒテ簡便ニ從ヒ講學者ヲシテ思考力ヲ要スルコト尠カラシムルトキハ其ノ學識ノ根底堅固ナラザルノ弊ニ陷リ易ク學術進歩ノ本源タル研究ノ念慮ヲ養成セントスルニハ反テ有害ナルヲ覺ユ、初等科教育部ノ長ハ殊更ニ此ノ點ニ留意シ教育ノ方法ヲ講ズベシ

七、試驗ハ教授科目若クハ學期終了ノ後ニ於テ之ヲ行フヲ例トス　但シ各教育部ノ長ハ講學者ノ階級ト當該機關ノ性質ニ應ジ其ノ試驗科目ヲ取捨スルコトヲ得

二、海軍砲術練習所及水雷術練習所教育要旨（砲術ニ關スル部分ハ之ヲ省ク）

水雷術練習所ニ於ケル教育ノ目的ハ講學者ヲシテ水雷術ニ精通セシメントスルニ外ナラズト雖其ノ階級ノ高下ト目的ノ如何トニヨリ其ノ方針ト程度トヲ異ニセザルヲ得ズ殊ニ准士官以下ニ在テハ我海軍ニテ使用スル兵器ヲ實用ニ供シ最良ノ効果ヲ收ムルヲ以テ唯一ノ目的ト爲シ決シテ徒ニ博聞洽識ナルヲ望マザルガ故ニ各練習所長ハ深ク此點ニ留意シ概ネ左ノ類列ニ從ヒ適當ノ教育方法ヲ講ズベシ

一、海軍大學校乙種學生卒業者

水雷術練習所ニ在テハ水雷長、水雷艇長、水雷團員、若ハ水雷ノ特技ヲ要スル他ノ職務ニ充ツベキ目的ヲ以テ教授スルモノニシテ其ノ科程ハ概ネ左ノ如シ

水雷術、水雷戰術及服務ニ關スル事項

二、機關官

水雷ニ關シ職務上必要ナル事項ヲ教授ス

三、第一ニ該當セザル將校

專門的ニ水雷術ヲ研究スベキモノナルガ故ニ其ノ教育ノ方針ハ猶選科學生ノ海軍大學校ニ於ケルガ如クナルベシ

四、准士官

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

水雷術ノ實用ヲ修得シ其ノ伎倆ヲ上達セシメムトノ希望ニ基キ入學セシムルモノナルガ故ニ練習所ハ臨時適當ノ教科ヲ設クベシ

五、水雷術教員ト爲スベキ下士卒

基本部教育上特ニ重大ナル責任ヲ有セシムルニ適スベキ優等ナル下士卒ヲ選拔シテ入學セシムルモノナルガ故ニ其ノ教科ノ程度ノ如キモ他ノ下士卒ニ比シ幾分カ高尚ナルヲ要ス故ニ練習所長ハ海軍教育ノ進歩ニ鑑ミ適當ナル教科ヲ設クベシ

六、水雷工ト爲スベキ下士卒

海軍ニ於テ使用スル水雷及電氣諸機具ノ取扱及修理ヲ爲シ得ベキ兵員ヲ養成スルヲ目的トシ入學セシムルモノナルガ故ニ最モ重キヲ實業ニ置キ旁ラ學科ヲ授クル如ク其ノ教育ノ程度ヲ定ムベシ

七、第五ニ該當セザル下士卒

掌水雷兵トシテ用フベキ兵員ヲ養成スルヲ目的トシ水雷術ヲ科學的ニ研修セシムベキ性質ノモノニアラザルガ故ニ練習所長ハ全ク實用ノ範圍内ニ於テ其ノ教程ヲ定ムルコトニ注意スベシ

所長ハ前諸項ノ外掌水雷兵ノ爲各其ノ修得セル事項ヲ復習講究セシメ且其ノ伎倆ヲ上達セシムルニ適當ナル教科ヲ設クベシ

所長ハ右ニ記載スル外海軍艦團部下士卒教育令實施例第六條及第十九條ノ趣旨ニ基キ教育ヲ實施スベシ

明治三十三年十二月海軍教育本部長ハ海軍大臣宛左記稟申ヲ爲セリ

教育ニ關スル諸計畫ノ儀ニ付稟申

教育ノ普及及發達ヲ圖ラムトセバ嚴重ニ其ノ實施ヲ監督スルト同時ニ教育機關及教育材料等凡テ之ニ要スル百般ノ設備等ヲ完成シ以テ當事者チシテ克ク其ノ職責ヲ盡サシムルニアリ然ルニ現時我海軍ノ教育ニ關スル諸般ノ設備ヲ顧ミレバ未ダ其ノ膨脹ニ伴ハザルモノ多々ニシテ之ガ完成ヲ期スルコト經費其ノ他ニ關聯シ實ニ容易ノ事ニアラズ然レドモ教育ハ緊要事タリ若シ容易ノ事ニアラズト云フヲ以テ猶豫スルガ如キアラバ益々其ノ完成ノ期ニ遠ザカリ遂ニ大難事トナルニ到ラン由テ先ヅ進ムベキノ方針ヲ確立シ一

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

時ニ爲シ能ハザルモノハ數年ニ亘ルモ着々其ノ方針ニ從ッテ以テ之ガ完成ヲ期セムコト目下ノ急務ト思慮シ玆ニ別紙計畫ノ要點ヲ提出シ豫メ之ガ高裁ヲ仰ギ置キ之ヲ以テ進行ノ方針トナシ本職ニ於テハ其ノ經費ヲ要スルモノハ豫算ヲ編制シ其ノ條例規則ノ改正ニ止ルモノハ其ノ案ヲ具シ事ノ大小輕重ヲ察シ緩急ヲ圖リ逐次提出決裁ヲ仰ギ着々其ノ實行ヲ期スル樣致度此段稟申候也

明治三十三年十二月三日　　海軍教育本部長　諸岡賴之

海軍大臣山本權兵衛殿

教育ニ關スル諸計畫（水雷術ニ關係アルモノノミ摘錄）

一、水雷術練習所ニ關スル事項

㈠　水雷術練習所ヲ長浦陸上ニ建築スルコト

㈡　軍艦濟遠ヲ附屬セシムルコト〔役務ヲ繰合セ其ノ手續ヲナサントス〕

㈢　第二十八號水雷艇ハ機關學校ニ讓リ他ノ水雷艇一隻又ハ二隻ヲ水雷術練習所ニ屬セシムルコト〔其ノ手續ヲ爲サントス〕

二、學校、練習所竝ニ五等卒教員ノ職ニ在ルモノハ海上勤務トシテ取扱フコト〔追テ吟味セシム〕

三、各學校練習所及海兵團ニ教育材料ヲ完備スルコト〔其ノ方法意見トシテ提出スベシ〕

四、各學校練習所ノ教官ハ豫メ其ノ候補者ヲ內定シ置キ且ツ大學校卒業者ヲ以テ充ツルコト

（編者記）〔〕內ハ大臣指令ヲ示シ、指令無キモノハ此際詮議ニ及ビ難キモノヲ示ス

明治三十四年二月山本海軍大臣ハ海軍艦團部下士卒教育令ヲ廢シ更ニ海軍艦團隊下士卒教育規則ヲ定ムル其ノ改正ノ理由竝ニ改正セシ主要事項及水雷術ニ關係アル規則ノ條項左ノ如シ

改正ノ理由

一、從來ノ下士卒教育令ハ教育ノ要旨竝ニ教育ノ必要ナル所以ヲ示スコトハ密ナルモ其ノ實施ノ方法ヲ示スコト疎ク又實施ノ督勵ハ單ニ基本長ヨリノ細密ナル實施報告ニ依ラントスルモノノ如ク徒ニ基本長ヲシテ其ノ煩ニ堪ヘザラシムル割合ニ其ノ効果揚

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

ガラザルヲ認メ玆ニ此ノ點ニ於テ主要ナル改正ヲ要ス

一、從來ノ基本部ノ外ニ水雷驅逐隊ヲ加ヘ又各基本部ニ適應セル教育科目表ヲ制定セリ

一、教育ノ種類ヲ精神教育、一般操練部署教育竝ニ練習號教育ノ四種ニ大別シテ其ノ系統ヲ區分シ以テ各基本部ニ於ケル教育ノ普及ト齊一ヲ容易ナラシメンコトヲ圖レリ

一、從來ノ教育令ニハ各部署教育及練習號教育トシテ教授スベキ科目及程度ヲ示サザリシガ故ニ本教育規則ニハ之ヲ示シ且例年練習號教育ヲ開始竝ニ終結スベキ時期ヲ一定シ以テ兵員ノ移動ニ關セズ其ノ教育ノ繼續ヲ完結セシメンコトヲ圖レリ

一、教育ノ奬勵ニ關シテ數ケ條ヲ設ケ以テ從來ヨリモ一層奬勵ニ依テ以テ下士卒教育ノ自動的進歩ヲ促スノ一端トナセリ

一、從來何レノ規則ニモ屬セザリシ砲手履歴ニ關スル事項ヲ該規則中奬勵ノ部ニ加ヘ以テ其ノ取扱ヲ明瞭ニセリ

一、新タニ特科兵助手教育法ヲ設ケ以テ特科兵ノ甚シキ欠乏ヲ補ヒ併セテ下士卒一般教育ノ進歩ヲ圖レリ

一、教育實施報告ノ例ヲ示シ從來ノモノヨリハ簡單ナルモノトナシタリ

一、基本長ノ教育査閲ヲ制定シ以テ教育ノ進歩及齊一ヲ圖ルコトヲ期セリ

海軍艦團隊下士卒教育規則中水雷術ニ關係アル事項抜萃

(一) 一般操練

一、一般操練ハ各基本部兵員ノ大部ヲ擧ゲ固有ノ部署ニ就キ一齊ニ施行スル教練ヲ云フ

二、一般操練ニ於テ施行スベキ科目ハ概ネ左ノ如シ(水雷術關係ノミ掲グ)

一、臨戰準備　二、合戰準備　三、戰鬪操練　四、夜中戰鬪操練　五、水雷艇防禦操練

六、端舟水雷軍裝　七、反裝水雷操練　八、水雷防禦網展張　九、探海又ハ掃海操練

十、水雷敷設操練　十一、驅逐隊又ハ水雷艇隊諸運動

(二) 部署教育

一、部署教育ハ兵員ヲシテ各部署ニ於ケル固有ノ配置ニ就カシメ其ノ部署ニ必要ナル科目ヲ課シ各部毎ニ施行スル教練ヲ云フ

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

二、部署教育ハ一般操練ニ對スル準備トシテ施行スルモノニシテ單ニ操練事業ノ諸動作ニ習熟セシムルノミヲ以テ足レリトセズ其ノ使用ノ兵器及器具ノ構造用途其ノ他注意スベキ必要ノ件ハ懇切明快ニ之ヲ指教スルヲ要ス

三、部署教育ニ於テ施行スベキ科目ハ概ネ別表第一ノ例ニ依ル

(三) 練習號教育

一、練習號教育ハ各兵種ノ等級ニ應ジテ若干ノ練習號ヲ組織シ各練習號ニ就キ施行スル教練ヲ云フ

二、練習號教育ハ下士卒ヲシテ其ノ兵種ニ適應スル一般ノ智識ヲ得シムルニ在リ

三、練習號教育ニ於テハ基本長ハ概ネ左ノ例ニ依リ部下ノ將校同相當官兵曹長以下下士ヲシテ教育ノ任ニ當ラシムベシ

科目	教育主任、教官	補助員
水雷術	水雷長(水雷長無キトキハ他ノ將校) 基本長指命ノ將校	掌水雷長、基本長指命ノ准士官下士
水雷工術	機關長 基本長指命ノ機關官	基本長指命ノ機關兵曹長、准士官下士

四、各基本部ハ毎年六月十二月練習號教育ヲ開始シ十一月五日迄ニ其ノ全科ヲ卒業シ得ル樣教授スルヲ要ス練習號教育ニ於テ教授スベキ科目ハ別表第二ノ例ニ依ル

五、驅逐隊及水雷艇ハ一般操練及別表第三ノ科目ニ就キ教育ヲ施行シ部署教育及練習號教育ハ施行セザルモノトス

(四) 教育ノ奬勵

一、左表ニ揭グル各基本部ニ於テハ左ノ諸號ニ依リ三等以上ノ水兵機關兵ニシテ實務ニ熟達シ身體强健品行方正ニシテ掌水雷兵、水雷工、若ハ機關工タルベキ技能學力ヲ有スト認メタル者(何レモ練習終結後二箇年以上ノ服役期限ヲ有スル者)ヲ選拔シ特別練習號ヲ組織シテ教育ヲ行ヒ其ノ試驗ニ及第シタル者ニ就キ特科兵助手ヲ命ジ特科兵助手證狀ヲ與フベシ

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

掌水雷助手ヲ養成スベキ基本部	水雷工助手ヲ養成スベキ基本部
一、水雷發射管ヲ有スル各軍艦 二、水雷艇隊 三、水雷敷設法	同上

イ、前表ノ各基本部ニ於テ毎年選拔スベキ特別練習號ノ人員ハ掌水雷助手ニ在リテハ掌水雷兵定員ノ四分ノ一以内、水雷工助手ニ在テハ水雷工定員ノ半數以内トス

ロ、特別練習號ノ教育ハ毎年十二月開始シ其ノ期限ハ約五箇月トス

ハ、各特別練習號ノ兵員ニハ其ノ教育期中第二十七條ニ揭ゲル練習號教育及艦團隊内ノ雜業ヲ免除シ其ノ時間ヲ以テ教育時間ニ充ツベシ

ニ、特別練習號ニテ教授スベキ科目ハ別表第四ノ例ニ依ル

ホ、各基本長ハ前諸號ノ教育ヲ受ケ試驗ニ及第シタル者ニ就キ選拔シ其ノ特科兵定員ノ半數ニ達スル迄特科兵助手ヲ命ジ特科兵助手證狀ヲ與フルコトヲ得

附　則

海軍艦團部下士卒教育令ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

（別表第一）

部署教育科目表

軍艦水雷部員

一、水雷發射管操練　二、魚形水雷ノ分解、結合、運搬、保存及發射管保存法、方位盤使用法　三、艇用水雷發射機操練及其ノ取附、收納、保存法　四、探海電燈取扱法及保存法　五、反裝水雷、艦用敷設水雷ノ裝備、搭載及發火法

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

六、假製水雷ノ裝備及發火　七、發電機ノ組成、取扱法ノ大要及諸電路

水雷敷設隊水兵部員

一、水雷裝備　二、水雷搭載操練　三、水雷接合操練及解方操練　四、水雷沈置場收及發火法　五、衛所整備及總發弧器使用法、保存法　六、假製水雷ノ裝備及發火法　七、電纜試驗及電纜保存法　八、電池配列、試驗法及保存法　九、水雷發射操練　十、魚形水雷ノ分解結合、運搬、保存及發射機保存法、方位盤ノ使用法　十一、通信裝置整備法　十二、探海電燈取扱法及保存法　十三、操砲　十四、銃隊操練及陸戰ニ關スル要務

同　機關部員

一、乃至七、略ス　八、魚形水雷ノ分解、結合及運搬法

（別表第二）

練習號教育科目表（水雷術）

兵曹及水兵ノ部　二等水兵以下科目

一、魚形水雷外部ノ名稱及其ノ水上水中ニ於ケル取扱竝ニ短距離運搬ニ關スル注意

二、水雷發射各部ノ名稱

三、敷設水雷ノ種類、名稱、使用目的及屬具ノ名稱、電纜電線ノ種類名稱、用途貯藏法、水雷術所用水雷器具ノ名稱（此科目ハ水雷敷設隊ニ限ル）

四、綿火藥、爆發信管ノ貯藏法及其ノ取扱上ノ注意、發電機ノ艦內所在、探海電燈電路、探海及白熱電燈ノ取扱ニ關スル注意

五、電池竝ニ電氣器具ノ名稱及使用法

同　兵曹及一等水兵科目

一、二等水兵以下ノ科目　二、電氣及磁氣學ノ大要　三、電氣通信機ノ使用法　四、探海錨掃海索ノ裝備及使用法

五、水雷發射管及水雷發射機使用法　六、水雷方位盤ノ說明

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

（別表第三）

驅逐艦水雷艇員教育科目表

水雷部員科目

一、發射管操練　二、大砲操練　三、銃隊操練、小銃分解結合及小銃射撃教範摘要　四、拳銃操法及拳銃分解結合

五、舵具破損應急法　六、出艇法及錨、錨鎖ノ取扱法　七、距離目測及照準法　八、砲架砲架砲具彈藥及火工品ノ保存法　九、魚形水雷ノ分解結合、運搬法及方位盤使用法　十、魚形水雷及發射管ノ保存法　十一、電池及電氣器具ノ保存取扱法　十二、探海電燈取扱法及保存法　十三、信號術及信號器破損中傳令法　十四、端舟操漕及所屬端舟ノ取扱法

十五、號笛吹方練習　十六、測鉛投法練習及測程器使用法　十七、結索諸法、帆縫　十八、塗具取扱法　十九、負傷者救急及運搬法　二十、按針術　二十一、潛水術　二十二、障害物破壞法　二十三、普通學

〔備考〕機關部員科目中ニ「魚形水雷ノ分解、結合及運搬法」ヲ含ム

（別表第四）

特別練習號教育科目

掌水雷助手教程

〔電氣ノ部〕一、定辭　一、電氣及磁氣學大意　一、電池　一、電氣諸測器竝ニ試驗法　一、電綸　一、電纜　一、電氣計測法　一、電池配列法　一、電氣通信機　一、發火電路　一、發電機　一、白熱燈　一、弧狀燈　一、電動機

〔防禦ノ部〕一、爆發藥　一、信管　一、水雷及諸器具　一、水雷準備　一、敷設法　一、衛所整備　一、試驗法　一、發火法　一、揚收法　一、水雷防禦網　一、障碍物

〔攻撃ノ部〕一、魚形水雷　一、魚形水雷頭部　一、發射管　一、發射法　一、反裝水雷　一、探海法　一、掃海法　一、障碍物破壞法

本規則ハ前顯改正理由ニ見ル如ク實地具體的教育ヲ與ヒ内容秩序的ナル點等從來ノ關係法規ニ比シ出

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

色セルモノニシテ内容實質共ニ後來ノ基調ヲ作セルモノナリ

明治三十四年參謀長會議ノ際教育本部長ハ水雷術及水雷術練習所ニ關シ左記諮問ヲ爲シ之等ノ進歩ヲ企劃スルトコロアリキ

(一) 水雷術練習所ニ於ケル機關士教程ハ機關學校ニ於ケル現教程ト少シモ重複ノ嫌ヒナキカ又水雷術練習所ニ於ケル機關士教程中電氣學ノ如キハ一般ニ機關官ノ修練スベキ科目トシテ全然之ヲ機關學校生徒タル間ニ教授スルノ得失如何

(二) 各科特科兵(掌水雷兵、水雷工、掌砲兵、機關工)ノ缺乏ヲ補ハンガ爲各艦團部隊ニ於テ臨時特別ノ教程ヲ設ケ若干人宛ヲ選拔シ之ニ其ノ教育ヲ施シ准特科兵ヲ作ラントス現今ノ週課ヲ變換セズシテ之ヲ施行シ得ルヤ之ヲ施行シ得ルトセバ其ノ方法如何

但シ准特科兵ノ教育期限ハ約六ケ月ニシテ之ニハ多少ノ手當ヲ給シ特種ノ徽章ヲ附スルモノト見做スベシ

而シテ右ノ内(一)ハ概ネ改定ノ要無シトセラレタルモ(二)ハ概ネ實施可能ノ方策ナリト認メラレ翌三十四年改定艦團隊下士卒教育規則中ニ具體的ニ實現セラルルニ至レリ

明治三十四年九月海軍大臣ハ海軍艦團隊將校機關官教育規定ヲ改正シ次デ海軍艦團隊將校及機關官教育規則ニ對スル訓令ヲ發シ關係諸官ノ遵守服膺スベキ所ヲ指示シ更ニ同年十月教育本部ニ於テ各鎭守

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

府及艦隊參謀長ヲ會同シ教育諮問會ヲ開催シ當局ノ希望ヲ開陳スルトコロアリシガ何レモ當時教育訓練ニ對スル上下ノ意氣ト熱意ヲ窺フニ足ルモノアリ之等ノ内容ハ帝國海軍教育史卷七及帝國海軍砲術史卷一ニ詳カナリ

明治三十五年度參謀長會議ノ際教育本部長ノ希望覺書ヲ摘記シ當時ニ於ケル當路要望ノ一端ヲ示サン

(一) 近來教育ニ關スル諸種ノ規定改正セラレタルモノ多キハ各官ノ知ル處ニシテ是レ教育ノ普及ヲ圖ル爲諸般ノ制度ヲ完成スルニ在ルコト言ヲ待タズシテ明カナリ而シテ尚操砲程式ヲ始メトシ各種ノ操式教範ハ今日ニ在リテ適切ナラザル點多々アルノミナラズ此際新ニ制定ヲ要スルモノ鮮少ナラザルヲ以テ一昨年來當該練習所ヲシテ嘉ヲ之ガ草案起稿ニ從事セシメ特ニ完結ヲ告ゲントスルニ到レリ斯クノ如ク教育ニ關スル制度ハ近キ將來ニ於テ漸ク整備ノ域ニ達セントスルト共ニ艦團隊ニ於ケル教育實施ノ方法亦之ニ伴ハザレバ制度ノ完成ハ唯表面ノ裝飾ニ止リ何等ノ効果ナキニ至ルベシ而カモ之ガ實施ノ良否ハ一ニ司令長官以下各當事者ノ負フ處ナルヲ以テ本職ハ玆ニ深ク各官ノ注意ヲ望マザルヲ得ズ

(二) 近來各練習所練習生ニシテ中途ヨリ免セラルル者漸次增加ノ傾キアルハ教育上輕視スルヲ得ザル處ニシテ今其ノ原因ヲ調査スルニ大別シテ疾病不品行及成績劣等ノ三種類トス一層注意ヲ加ヘラレムコトヲ望ム

(三) 同會議ニ對スル諸問事項

各教育規則、各練習規則、水雷發射規則其ノ他現行教育制度ニ改正ヲ要スト認ムル點ナキヤ

同三十六年三月十二日海軍艦團隊下士卒教育規則ヲ改正ス是レ先ニ三十四年本則發布以來今日迄實施シ來レル經驗ニ徵シ幾分適切ナラザル點ヲ認メタルガ故ニ此際之ガ改正ヲ行ヒ益々教育ノ良果ヲ收メムトスルニ依ル而シテ其ノ改正理由中水雷術ニ關係アル部分ヲ左記シ本文(改正規則)ノ記載ニ代フ

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

一、報告書類ヲ大ニ輕減シ艦團隊當事者ノ煩勞ヲ大ニ減却シテ其ノ餘裕ヲ教育其ノ他ノ實地ニ向テ注グコトヲ得ベカラシム

二、驅逐艦水雷艇ハ乘員少數ニシテ到底特科兵助手教育ヲ完全ニ施シ難キガ故ニ之等基本部ニ對シテハ助手養成ヲ廢セリ

三、現行規則ニ於テ下士卒練習ノ任ニアル基本部ハ精神教育ノミ本則ニ依リ他ハ各其ノ規定ニ依リ教育ヲ實行スベシトアルモ之等基本部ニシテ下士卒教育ノ全部若クハ一部ヲ施行シ得ルモノハ本則ニ依リ實施スルヲ至當トス

本則及前顯海軍艦團隊將校及機關官教育規則ト共ニ二三ノ局部的小改正ヲ經テ明治四十二年ニ及ベリ

http://navgunschl.sakura.ne.jp/